てんぐ新聞

'14.12 No.210
発行 市岡自然
責任 0883-88-5292

十月三日、東祖谷小学校で「キッズ左京バル」が開かれ、仲良しの子供たちが多くを見学させてもらいました。合唱、合奏そして劇ありと面白い、楽しい時間を共有することが出来ました。それぞれの学年がアイデアを出しての演出少ない人数なんて気にならない内容でした。その中でも、たった三人だけの同級生だけでしたが、実に面白かったのは、劇の本当の宝物は？でした。それぞれの役が次々と変わっていく中で、宝物をさがしていく、笑いの中に、求めている物が見えてきました。また、同じ劇でも東祖谷ゆるきゃらグランプリでは、そば、コニャク、かかし、平家伝説、剪合戦のゆるキャラが競いグランプリをめざすのですが、それぞれが、自分の特徴を主張しあうのは、なぜか、今の東祖谷を表現しているのじゃないかと感じたのは私だけだったろうか。

あなたならどうする？

大人たちよ、何してるんで、東祖谷の中は今、こんなになってるんでよと言われてるようで……。

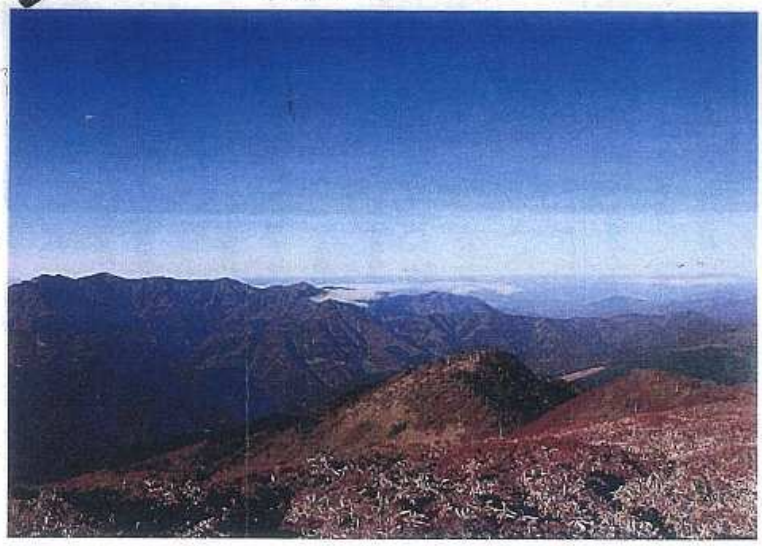
ちょうど、今月、そんな話し合いがあってばかりだったので時に強く感じました。

小人数で市長さんと話す機会がありました。

祖谷で問題となっているのは、空屋だったり、生活サポートだったり、杉林だったりくて多数が来てもこれらの事項はすぐに大変で、問題だと

あがる項目だとおもいます。

さて、それでは、どうすればこれらを解決されるか、となるとなかなか、効果的なアイデアは出ません。「あれをやって、これもやってくれ」という話はあっても、自分から、「これをやろう」という話は出てこない。何をやるにも、他人まかせ、行政まかせでは、解決の道が広くならない、いつまでたっても、同じ話だけでとまっている。

オレが、オレがの「我」を捨てることが出来ればいいのでしょうが……。一年の内、たった一日だけでも他人の為に何かが出来れば、また違った世界が見えてくるんじゃないだろうか

三嶺からの眺め